



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.67

令和3年2月5日

文責：校長 伊藤孝行

学力テストが終わりました。

今年度の学力テストが終わりました。テスト中は学校中が静まり、どの学級の子どもたちも真剣な表情で問題に取り組んでいました。



＜初めて学力テストを受ける1年生＞



＜最後の学力テストを受ける6年生＞

学力テストを含め子どもたちが受けるテストの傾向は、年々長文化と多問題化が進んでいます。

高校入試や大学入試でも同じ傾向です。これは、子どもたちに今、そして今後求められる学力がその傾向にあるということを物語っています。

長い文を速く正確に読む、文章と文章、文章とグラフや表を関連させて答えを導き出す力がますます求められています。

親の「宿題やったの」について①

保護者の皆様は、お子さんとの会話や接し方はいかがでしょうか。「順調、順調」と感じている方もいれば、「どうしたらいいのだろう?」と悩んでいる方もいると思います。

今回は、子どもの行動を子どもの心理とその背景から2回に分けて原因と対策を考えてみました。

ベネッセ教育研究開発センターで実施した「子

育て生活基本調査」に、以下のようなものがありました。

① 親が子どもに勉強するよう声かけをする

学 年	はい	いいえ
1年生～5年生	80%	20%
6年生	76.2%	23.8%

② 親の声かけによる勉強時間の差

親の声かけ「あり」	平均 57.6 分
親の声かけ「なし」	平均 53.3 分

※ 声かけしても3.4分しか増えていませんし、5年生に限っては、逆に3.6分少なくなっているという結果も出ています。



親の「宿題やったの」という

声かけは、低学年の子ども

には大変有効ですが、中学年

以上になると逆効果になって

しまうことが多くあります。

【「宿題やったの」がなぜ逆効果になるのか！】

「宿題やったの」「勉強しないの」という言葉を聞くと、子どもは「(´A`)いらっと」しながら子「今、やろうと思っていたのに、ああ、やる気が一気になくなった。」

子「いちいち、うるさいな。やる気が出るのを待っていたのに。ああ、なくなっちゃった。」

と、屁理屈にも思えるようなことを言ってきますが、それにはきちんとした理由があります。

「宿題やったの」という親の言葉の裏側には「きっとやっていないのだろう……」という親の思いが含まれていることが多いので、子どもは信用されていないと感じ取ってしまいます。

「宿題やったの」と声をかけたことで、親は自分の役目を果たしたように思います。しかし、子どもは疑いの目で見られているように感じ、やる気を失ってしまうことはよくあることです。

自分でもやらなくてはと分かっているけど、他人から「やれ」と言われるとやりたくなくなる子どものこういった行動を心理学では、心理的リアクタンスと定義されています。

①は終了です。続きは次号へ続きます。